

④ 設置者名及びロゴマーク

- ・環境省が設置する公園名碑標識には環境省名（日本語と英語で表記）とロゴマークを記載し、入口標識には記載しない。
- ・ロゴマークと文字の配列は、環境省のロゴマークの使用基準によるものとする。

例：環境省

例：Ministry of the Environment



図17 環境省ロゴマーク

（２）記名標識の文字サイズと配列

単柱式を除く記名標識の表示面に記入する文字のサイズは、道路標識設置基準に準じて、次のとおりとする。

① 漢字の大きさ

- a 国立公園名及び団地名等の利用者向けの漢字等は、原則として高さ20cm以上とする。
- b 団地名・地名等のサイズは、aと同じサイズとする。
- c 設置者名及び指定年は、aより小さく表示する。
- d 環境省名は、cより小さなサイズとする。

② 英語・ヘボン式ローマ字の大きさ

大文字は、日本語・漢字の高さの1/2とする。（小文字サイズは使用するフォントの基準による。）

なお、環境省名の英文字のサイズは、ロゴマークの標記基準によるものとする。

表示板記載事項の事例



図18 表示板記載事項の事例

③ 配列

国立公園の字数に応じたバランスの良い配列とすること。

(3) 表示板の色彩

標準仕様の表示板の色彩は次のとおりとする。

① 表示板の地色

表示板の製造方法により、使用する素材に若干の相違が生じるが、印刷時に指定する色彩は、「こげ茶色（D I C 3 3 3）」とする。

② 国立公園であることのイメージを速やかに伝えるためのアイキャッチとして、表示板の天部には暗緑色の帯をほどこすこと。ただし、管理運営計画等において広告物への暗緑色の使用を禁じている場合はこの限りではない。

その印刷指定色は、「暗緑色（D I C 2 1 6）」とする。

注：この暗緑色は環境省ロゴマークに使われている色彩である。

注：印刷指定色（DIC）は印刷物の色票であり、鋼材塗装の指定色（（社）日本塗料工業会色票番号）とは異なり近似色となるため、見本色と比較した上で決定すること。



図19 表示板の色彩

③ 反射シートと塩ビシートの使い分け

反射シートと塩ビシートの使い分けは次のとおりとする。

表12 反射シートと塩ビシートの使用区分

反射シート	一般標識（道路標識タイプ）の全て及び、走行する自動車のライトが直接的にあたる位置に設けるデザイン標識の表示板
塩ビシート	上記以外の標識の表示板

④ 表示板の裏着色

表示板の裏には、表面の地色に使用した塗料を塗布すること。表面が塗料以外の場合にあっては、その素材の色彩に類似の塗料を塗布すること。

(4) 柱の色彩

自然素材を使って自然色で仕上げるモニュメント型を除く各標識の支柱の色彩は、上記指定色に近似のこげ茶色を原則とする。ただし、周辺の交通標識とのバランスを考慮した結果、こげ茶色が不自然と見られる場合にあっては、亜鉛メッキのどぶ付け色（灰色）でもよい。

(5) 文字の仕様

表示板に使用する文字は次のとおりとする。

① 和文文字（漢字・ひらがな・カタカナ）

角ゴシックとする。

この指針に事例として掲示している画像に使用したフォントは次のものである。

- ・ ヒラギノ角ゴシック W6

② 英文文字（アルファベット）

角ゴシックのプロポーショナル（詰め打ち）フォントで印字した文字列を使用する。

注：原則として、全角文字の羅列による表示は行わないものとする。

表13 英文文字の表示例

○	Chubusangaku
×	CHUBUSANGAKU

（6）ローマ字の表記方法

ローマ字の表記方法は、次のとおりである。

① 使用する50音表

ローマ字はヘボン式50音表に基づいて表記するものとする。

② 注記基準（そえがき）

（ア）はねる音「ン」はすべて『n』と書く。ただし、m、b、pの前では『m』を用いる。

（イ）はねる音を表す「n」と次に来る「母音字」または「y」とを切り離す必要がある場合には、「n」の次に『-』（ハイフン）を入れる。

（ウ）つまる音は、次にくる最初の子音字を重ねて表す。ただし、次に「ch」が続く場合には、「c」を重ねずに『t』を用いる。

（エ）長音は、母音字の上に『-』（長音符標）をつけて表すことができる。

注：長音符標は日本独自のもので、外国人に理解されない可能性がある。使用や不使用は自治体等で対応が異なるため、表示に当たっては確認を要する。

長音が大文字の場合は母音字を並べることができる。

注：入口標識に限っては、道路標識と同じ機能が求められるため、道路系で使われている長音ルールにより、特段の記号を付けないので留意する必要がある。

（オ）特殊音の書き表し方は自由とする。

（カ）文の書きはじめ並びに固有名詞は語頭を大文字で書く。なお、固有名詞以外の名詞の語頭を大文字で書くこともできる。

（キ）意味のかたまりや発音のしやすさ等の観点から、複数の名詞等で構成される固有名詞や「o」が重なる場合等は、その間に『-』（ハイフン）を入れることができる。

(iii) 案内標識・注意標識・記名標識（資源名標識）及び解説標識・揭示板・境界標識の標準表示の基本事項

(1) 標識本体の標準表示の基本事項

① 表面と裏面

- ・総合案内標識、案内図標識、および誘導標識の腕木タイプについては、自然環境の中での標識の視認性を考慮し、利用者に視認される位置に標識が設置される場合には、裏面にも表示を行う。
- ・その他の標識は、裏面の表示を行わない。

② 団地名・地名記載

地域の実情に応じて、「国立公園 ○○（地名）」という表記も活用することとする。

(2) 案内標識・注意標識・記名標識（単柱式）の標準表示の記載事項

① 言語・文字

- ・使用する言語は、公共標識の標準表示内容（公共標識 28 頁表 8 を参照）に基づき、日本語と英語で表記する。
- ・各自然公園等の外国人の利用特性に応じてその他の言語（中国語（簡体字）、中国語（繁体字）、韓国語、その他言語）で表記する。

② 書体

- ・日本語に使用する文字は、線幅がほぼ一定で視認性に優れた「角ゴシック体」を基本とする。
- ・なお比較的長い文章などの場合には、可読性を考慮して他の書体を用いることも可とする。
- ・英語・数字の書体は、日本語書体の角ゴシック体との調和を考慮するとともに、視認性に優れた「サンセリフ系書体*」を基本とする。
- ・中国語、韓国語、その他の言語の書体は、角ゴシック体に準じた書体を選択することを基本とするが、各母国で標準的な書体がある場合には適宜選択する。
- ・長い名称など、表記スペースが不足する場合は、横組み表記では長体を、縦組み表記では平体をそれぞれかける。ただし、可読性が低下するため、過度の変形は避ける。

*サンセリフ系書体：欧文書体のうち、文字の末端部にある爪のような装飾（セリフ）がなく、文字に使用する線の太さがほぼ一定である書体

③ 文字の大きさ

- ・視距離による文字の大きさの目安は、下表に示すとおりである。
- ・日本語に併記する英語の文字の大きさは、日本語の文字高さの 3/4 程度を基本とする。

表14 参考：旅客施設ガイドラインにおける文字サイズの考え方

視距離	和文文字高	英文文字高
10m の場合	4cm 以上	3cm 以上
4～5m の場合	2cm 以上	1.5cm 以上
1～2m の場合	0.9cm 以上	0.7cm 以上

（両眼矯正視力 0.5 を想定）

■日本語 角ゴシック体の例：ヒラギノ角ゴPro W6

(正体)

雲仙天草国立公園

(長体 90%)

雲仙天草国立公園

(長体 75%)

雲仙天草国立公園

(正体)
自然探勝路

(平体 90%)
自然探勝路

(平体 75%)
自然探勝路

■英語 サンセリフ系書体の例：フルティガー

Frutiger 55 Roman

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz 0123456789

Unzen-Amakusa National Park

Frutiger 57 Condensed

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz 0123456789

Unzen-Amakusa National Park

■文字の大きさ（文字高）

国立公園

日本語の文字高：1

Hiking trail

英語の文字高：3/4

図 20 文字の表記例

④ ピクトグラム

(ア) ピクトグラムとは

ピクトグラムは、抽象化・単純化された絵を用いて多くの人に共通の事象を示す視覚伝達手段であり、情報伝達の国際化およびユニバーサルデザインの観点から、積極的な活用を図る。

(イ) ピクトグラムの種類

ピクトグラムは、以下に示すものが使用されている。

- ・日本国内で使用されているピクトグラム
 - 「JIS Z 8210 案内用図記号」
(一般財団法人日本工業規格協会、平成 26 年 7 月現在 128 種類、付属書 23 種類)
 - 「標準案内用図記号ガイドライン」
(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団、平成 26 年 3 月現在 134 種類)
- ・自然公園で使用されているピクトグラム
 - 「自然公園の公共施設で使用するピクトグラム」(環境省)
出典)「自然公園公共標識における標準表示例調査検討業務」(平成 22 年 3 月環境省)
- ・その他のピクトグラム
 - 「オストメイト」「AED」など、利用者の利便性や安全に関わるもの
 - 「国道」「都県道」「踏切」など、道路標識令により位置づけられるもの
 - 「身障者用トイレ」など複数のピクトグラムを組み合わせたもの
 - 「ISO7001 Public information symbol」
「ISO7010 Safety colours and safety signs」
「ISO20712 Water safety signs and beach safety flags」(以上、国際標準機構)

(ウ) 自然公園の公共標識で使用するピクトグラム

- ・多言語対応のピクトグラム
観光庁ガイドラインにおけるピクトグラムの使用の考え方に準じ、外国人利用を対象に「JIS Z 8210 案内用図記号」(平成 26 年 7 月現在 付属書掲載を含む 151 種類)と「標準案内用図記号ガイドライン」(平成 26 年 3 月現在 134 種類)を使用して、「多言語対応のピクトグラム」(156 種類)として設定する。(公共標識 42～48 頁参照)
ただし、ピクトグラムは、追加更新されることがあることから、公益財団法人 交通エコロジー・モビリティ財団ホームページ (<http://www.ecomo.or.jp/>) 等での確認が必要となる。
- ・自然公園独自のピクトグラム
利用者の理解を促すことを目的に、「自然公園の公共施設で使用するピクトグラム」(環境省)から上記の「多言語対応のピクトグラム」で掲載されているピクトグラムを除いた「自然公園独自のピクトグラム」(25 種類)を設定する。
ただし、広く一般的に普及しているピクトグラムではないことから、ピクトグラムの意味を日本語と英語で必ず表記することを原則とし、利用特性に応じてその他の言語を加えるものとする。

(エ) 大きさ

- ・ピクトグラムの大きさは基準枠（下図 A 寸法）の大きさを表すが、外形の正方形、円形、三角形の形状が視覚的に同じ大きさに見えるよう考慮する。
- ・JIS Z 8210 に規定されたピクトグラムは、視距離 1m で表示する場合の最小寸法を 35mm 角とする条件で設計されている。自然公園の公共標識で使用するピクトグラムは、JIS によらないものも含め、この条件に従って使用する。（視距離 0.5m を想定して表示する場合の最小寸法は 17.5mm 角となる）

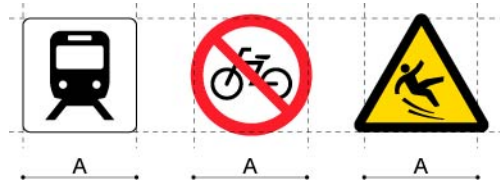


図 21 ピクトグラムの大きさ例

(オ) 文字の併記

- ・「多言語対応のピクトグラム」のうち、文字によるの補助表示が必要とされているもの（公共標識 46 頁：図番号 108～110,112,113、公共標識 47 頁図番号 129,135,139、公共標識 48 頁図番号 141,145～150）、全ての「自然公園独自のピクトグラム」（公共標識 49 頁図番号 1～25）に、ピクトグラムの意味を文字で併記することを原則とする。
- ・文字は、「公共標識の標準表示内容」（公共標識 28 頁表 8 参照）に基づき、日本語と英語での表記を基本とする。各自然公園等の利用特性に応じて、その他の言語（中国語、韓国語、その他言語）を加えることとする。
- ・地図上にピクトグラムを表示する場合は、必要に応じて凡例にピクトグラムの意味を文字で表記する。
- ・利用者の安全性確保を重視する場合は、外国人利用も含め、誘導標識や注意標識のピクトグラムの意味内容を文字で表記することも検討する。
- ・ピクトグラムに文字を併記する場合は、日本語文字高を 4 とした場合、英語文字高を 3、ピクトグラムの外形枠を 9 の比率で表示することを原則とする。



図 22 ピクトグラムの文字併記例

(カ) 色彩

- ・標準案内用図記号ガイドライン、JIS Z 8210 に色彩が規定されたピクトグラムは、色彩を変更せずに用いる（下表参照）。
- ・ピクトグラムを案内図上に表示する場合は、視認性を考慮して黒地に白図のネガ表現を原則とする。背景の明度が低い場合は、ピクトグラムを白の枠線で囲み視認性を高める。
- ・モノクロのピクトグラムを誘導標識に表示する場合は、白地に黒図のポジ表現を原則とする。
- ・案内図上で用いる案内所、情報コーナー、お手洗など利用者の利便性に係るピクトグラムは、一般施設との区別を明確にするとともに、視認性を高めるため、青地に白図のネガ表現とする。

表 15 ピクトグラムの色彩例

種類	安全 (防火・緊急)	(禁 止)	注 意 (明示)	指 示 (誘導)	安 全 (避難・救護)
基本形状					
色	赤		黄	青	緑
	正方形の内部を赤で塗りつぶす	緑および内部の斜線部分は赤とし、その他は白とする	三角の枠部分は黒とし内部は黄とする	円の内部を青で塗りつぶす	正方形の内部を緑で塗りつぶす
マンセル値	7.5 R 4 / 15		2.5 Y 8 / 14	2.5 PB 3.5 / 10	10 G 4 / 10
CMYK 値	0 / 100 / 100 / 0		0 / 20 / 90 / 0	100 / 60 / 10 / 0	100 / 20 / 70 / 0

※ 表中の色は印刷により実際の色とは異なるため、色見本等による確認が必要である。

※ マンセル値：色彩を色相・明度・彩度の3属性により定量的に表す国際的な尺度。ここでは、JIS Z 9101（安全色および安全標識）に規定された値を示す。

※ CMYK 値：一般的な印刷に用いられる4色のインク（C：シアン、M：マゼンタ、Y：イエロー、K：ブラック）のかけあわせにより色を再現する方法で、「プロセスカラー」ともいう。ここでは赤・黄・青色・緑色のマンセル値の近似色として、「地図を用いた道路案内標識ガイドブック」に示された値を示す。

ポジ表現・ネガ表現



ポジ表現



ネガ表現

利便性に係る施設の表現



図 23 ピクトグラムの視認性配慮例

(キ) 文字、ピクトグラムの表示方法

- ・案内図上で用いる文字やピクトグラムは、高齢者や弱視者にも判読しやすいよう、できるだけ大きく表示する。ただし、地図上に表示された施設類が多い場合や、地図の縮尺が小さいなどの場合は、文字やピクトグラムによって地図情報が隠れてしまうことがあるため、下に示す文字・ピクトグラムの大きさを参考にし、最低限必要な大きさに配慮する。
- ・一度に認識できる情報量には限度があるため、場合によって情報量を減らすことも考慮する。

表 16 参考：地図上に表示する文字・ピクトグラムの大きさ例

視距離	和文文字高	英文文字高		ピクトグラム	和 文	英 文
30m の場合	120mm 以上	90mm 以上	凡例部表示	24.0mm	10.5mm	8.0mm
20m の場合	80mm 以上	60mm 以上	特大サイズ	—	18.0mm	14.0mm
10m の場合	40mm 以上	30mm 以上	大サイズ	21.0mm	9.0mm	7.0mm
4～5m の場合	20mm 以上	15mm 以上	中サイズ	16.5mm	7.0mm	5.5mm
1～2m の場合	9mm 以上	7mm 以上	小サイズ	12.0mm	5.0mm	4.0mm

※ 視距離 50cm を想定
 ※ 案内所、情報コーナー、都道府県庁、市町村役場、博物館など、移動の目的地となる主要な施設の表示には、大サイズを用いる

視距離	40m	30m	20m	10m	5m	1m
ピクトグラム基準枠寸法 (mm 角以上)	480	360	240	120	60	35

(ク) ピクトグラムの組み合わせ・左右の反転

- ・施設の複合的な機能を表す際には、ピクトグラムを組み合わせることができる。
- ・ピクトグラムの向きと実際の位置関係が矛盾する場合には、図形の左右を反転することができる。
- ・ピクトグラムを組み合わせる場合は、下表の比率を原則とする。

組み合わせの原則	組み合わせ例
	身障者対応のお手洗
	身障者・乳幼児用施設を備えたお手洗 身障者・乳幼児・オストメイトに対応したお手洗

左右反転例（お手洗）	
	 実際の位置関係に対応した表記 （左右を反転）

図 24 ピクトグラムの組合せ・左右反転例

(ケ) 凡例における表示方法

- ・地図上に表示されたピクトグラム等の記号について、凡例で説明する。
- ・凡例は日本語と英語で表記することを基本とする。各自然公園等の利用特性に応じて、その他の言語（中国語、韓国語、その他言語）を加えることとする。

① 凡例文字のレイアウト例

日本語 / 英語 / 中国語(繁体字) / (簡体字) / 韓国語

② ピクトグラム文字のレイアウト例

日本語 / 英語
中国語(繁体字) / (簡体字) / 韓国語

③ 凡例のレイアウト例



図 25 凡例の表示例

(コ) 多言語対応のピクトグラム

外国人利用者のわかりやすさを目的に使用するピクトグラムを示す。

1. 公共・一般施設 Public Facilities		1. 公共・一般施設 Public Facilities	
1	 案内所 Question & answer	※ 12	 火災予防条例で左記の図記号の使用が規定されている場所には、左記の図記号を使用する必要がある。
2	 情報コーナー Information	13	 チェックイン / 受付 Check-in / Reception
3	 病院 Hospital	14	 忘れ物取扱所 Lost and found
4	 救護所 First aid	15	 ホテル / 宿泊施設 Hotel / Accommodation
5	 警察 Police	16	 きっぷうりば / 精算所 Tickets / Fare adjustment
6	 お手洗 Toilets	17	 手荷物一時預かり所 Baggage storage
7	 男性 Men	18	 コインロッカー Coin lockers
8	 女性 Women	19	 休憩所 / 待合室 Lounge / Waiting room
9	 障害のある人が使える設備 Accessible facility	20	 ミーティングポイント Meeting point
10	 スロープ Slope	21	 銀行・両替 Bank, money exchange (通貨記号の変更可)
11	 飲料水 Drinking water	22	 キャッシュサービス Cash service (通貨記号の変更可)
12	 喫煙所 Smoking area	23	 郵便 Post

1. 公共・一般施設 Public Facilities			1. 公共・一般施設 Public Facilities		
24		電話 Telephone	36		シャワー Shower
25		ファックス Fax	37		浴室 Bath
26		カート Cart	38		水飲み場 Water fountain
27		エレベーター Elevator	39		くず入れ Trash box
28		エスカレーター Escalator	40		リサイクル品回収施設 Collection facility for the recycling products
29		上りエスカレーター Escalator , up	41		高齢者優先設備 Priority facilities for elderly people
30		下りエスカレーター Escalator , down	42		障害のある人・けが人優先設備 Priority facilities for injured people
31		階段 Stairs	43		内部障害のある人優先設備 Priority facilities for people with Internal disabilities, heart pacer, etc.
32		乳幼児用設備 Nursery	44		乳幼児連れ優先設備 Priority facilities for people accompanied with small children
33		クローク Cloakroom	45		妊産婦優先設備 Priority facilities for expecting mothers
34		更衣室 Dressing room	46		高齢者優先席 Priority seats for elderly people
35		更衣室（女性） Dressing room (women)	47		障害のある人・けが人優先席 Priority seats for injured people

1. 公共・一般施設 Public Facilities		
48		内部障害のある人優先席 Priority seats for people with internal disabilities, heart pacer, etc.
49		乳幼児連れ優先席 Priority seats for people accompanied with small children
50		妊産婦優先席 Priority seats for expecting mothers
51		コミュニケーション Communication in the specified language (言語 (ENGLISH) は、他の言語及び国旗に変更することができます。)
52		靴を脱いでください Take off your shoes
53		組合せ使用 (図記号セット)の基本
54		組合せ使用 (補助的に文字を入れた例)
55		優先エレベーターでの 使用例 必要とされる方に、おゆずりください
56		電車の優先席で 使用例 必要とされる方に、おゆずりください
57		オストメイト記号

2. 交通施設 Transport Facilities		
60		船舶 / フェリー / 港 Ship / Ferry / Port
61		ヘリコプター / ヘリポート Helicopter / Heliport
62		バス / バスのりば Bus / Bus stop
63		タクシー / タクシーのりば Taxi / Taxi stop
64		レンタカー Rent a car
65		自転車 Bicycle
66		ロープウェイ Cable car
67		ケーブル鉄道 Cable railway
68		駐車場 Parking
69		出発 Departures
70		到着 Arrivals
71		乗り継ぎ Connecting flights
72		手荷物受取所 Baggage claim

2. 交通施設 Transport Facilities		
58		航空機 / 空港 Aircraft / Airport
59		鉄道 / 鉄道駅 Railway / Railway station

3. 商業施設 Commercial Facilities		4. 観光・文化・スポーツ施設 Tourism, Culture, Sport Facilities	
73	 税関 / 荷物検査 Customs / Baggage check	85	 展望地 / 景勝地 View point
74	 出国手続 / 入国手続 / 検疫 / 書類審査 Immigration / Quarantine / Inspection	86	 陸上競技場 Athletic stadium
75	 レストラン Restaurant	87	 サッカー競技場 Football stadium
76	 喫茶・軽食 Coffee shop	88	 野球場 Baseball stadium
77	 バー Bar	89	 テニスコート Tennis court
78	 ガソリンスタンド Gasoline station	90	 海水浴場 / プール Swimming place
79	 会計 Cashier (通貨記号の変更可)	91	 スキー場 Ski ground
80	 店舗 / 売店 Shop	92	 キャンプ場 Camp site
81	 新聞・雑誌 Newspapers, magazines	93	 温泉 Onsen (Hot spring)
82	 薬局 Pharmacy	94	 公園 Park
83	 理容 / 美容 Barber / Beauty salon	95	 博物館 / 美術館 Museum
84	 手荷物託配 Baggage delivery service	96	 歴史的建造物 1 Historical monument 1

4. 観光・文化・スポーツ施設 Tourism, Culture, Sport Facilities		5. 安全 Safety	
97	 歴史的建造物 2 Historical monument 2	108	 避難所（建物） Evacuation shelter (文字による補助表示が必要)
98	 歴史的建造物 3 Historical monument 3	109	 津波避難場所 Tsunami evacuation area (文字による補助表示が必要)
99	 自然保護 Nature reserve	110	 津波避難ビル Tsunami evacuation building (文字による補助表示が必要)
100	 スポーツ活動 Sporting activities	111	 非常口 Emergency exit
101	 スカッシュコート Squash court	112	 洪水 Flood (文字による補助表示が必要)
102	 スキーリフト Ski lift	113	 堤防 Levee (文字による補助表示が必要)
103	 腰掛け式リフト Chair lift	6. 禁止 Prohibition	
5. 安全 Safety		114	 一般禁止 General prohibition
104	 消火器 Fire extinguisher	115	 禁煙 No smoking
105	 非常電話 Emergency telephone	116	 火気厳禁 No open flame
106	 非常ボタン Emergency call button	※ 116	 火災予防条例で左記の図記号の使用が規定されている場所には、左記の図記号を使用する必要がある。
107	 広域避難場所 Safety evacuation area	117	 進入禁止 No entry

6. 禁止 Prohibition	
118	 駐車禁止 No parking
119	 自転車乗り入れ禁止 No bicycles
120	 立入禁止 No admittance
121	 走るな / かけ込み禁止 Do not rush
122	 さわるな Do not touch
123	 捨てるな Do not throw rubbish
124	 飲めない Not drinking water
125	 携帯電話使用禁止 Do not use mobile phones
126	 電子機器使用禁止 Do not use electronic devices
127	 撮影禁止 Do not take photographs
128	 フラッシュ撮影禁止 Do not take flash photographs
129	 ベビーカー使用禁止 Do not use prams (文字による補助表示が必要)

6. 禁止 Prohibition	
130	 遊泳禁止 No swimming
131	 キャンプ禁止 No camping
132	 飲食禁止 Do not eat or drink here
133	 ペット持ち込み禁止 No uncaged animals

7. 注意 Warning	
134	 一般注意 General caution
135	 障害物注意 Caution, obstacles (文字による補助表示が必要)
136	 上り段差注意 Caution, uneven access / up
137	 下り段差注意 Caution, uneven access / down
138	 滑面注意 Caution, slippery surface
139	 転落注意 Caution, drop (文字による補助表示が必要)
140	 天井に注意 Caution, overhead

7. 注意 Warning	
141	 感電注意 Caution, electricity (文字による補助表示が必要)
142	 津波注意（津波危険地帯） Warning, Tsunami hazard zone

8. 指示 Mandatory	
143	 一般指示 General mandatory
144	 静かに Quiet please
145	 左側にお立ちください Please stand on the left (文字による補助表示が必要)
146	 応用例 variant (文字による補助表示が必要)
147	 一列並び Line up shingle fire (文字による補助表示が必要)
148	 二列並び Line up in twos (文字による補助表示が必要)
149	 三列並び Line up in threes (文字による補助表示が必要)
150	 四列並び Line up in fours (文字による補助表示が必要)
151	 矢印 Directional arrow

8. 指示 Mandatory	
152	 安全バーを閉める Close over safety bar
153	 安全バーを開ける Open over head safety bar
154	 徒歩客は降りる Foot passenger have to get off
155	 スキーの先を上げる Raise ski tips
156	 スキーヤーは降りる Skiers have to get off

出典)「JIS Z 8210 案内用図記号」(平成 26 年 7 月現在)

「標準案内用図記号ガイドライン」(公財 交通エコロジー・モビリティ財団, 平成 26 年 3 月現在)

図 26 多言語対応のピクトグラム例

(サ) 自然公園独自のピクトグラム

利用者に理解されることを目的にする場合に使用するピクトグラムを示す。

次に示すピクトグラムには、文字の併記を必ず行う。また、同一地域の既設標識のピクトグラムと差異がないよう事前に確認を行う。(差異がある場合は、公共標識 59 頁④参照)

1. 施設表示等		
1		自然探勝路、園路、歩道 Nature trail / Footpath
2		登山道 Trail / Hiking trail
3		避難小屋 Shelter hut
4		山小屋 Mountain lodge
5		ビジターセンター Visitor center, Nature center
6		自然保護官事務所 Ranger station / Ranger office

2. 禁止・規制、警告、指示、マナー等		
7		悪路のため足下注意 Rough terrain! Watch your step
8		落石危険・頭上注意 Danger of falling rocks!
9		危険・火山性有毒ガス注意 Toxic volcanic gas! 雨天時注意・土石流危険渓流 Danger of landslide when raining 等
10		危険・ヒグマ出没中注意 Warning! Bear habitat
11		落枝注意 Caution, falling twigs
12		スノーモービル等乗り入れ規制 区域 Snowmobiles prohibited area
13		自動車バイク等乗り入れ規制区 域 All motor vehicles prohibited area
14		モーターボート等乗り入れ規制 区域 Motorboats prohibited area
15		花を採らないでください / 採ら ない Do not pick wildflowers or damage plants

2. 禁止・規制、警告、指示、マナー等		
16		動物を獲らないでください / 獲ら ない No hunting or fishing / All wildlife is Protected from hunting or harassment
17		野生動物に餌を与えないでくださ い / 与えない Do not feed any wild animals / Do not feed and handle wildlife
18		自然を大切に / 自然を大切にし よう Care for nature 等
19		歩行中禁煙 / 吸わない No smoking while walking
20		焚火禁止 / 炊かない No lighting fires / Fires are not permitted
21		ペットの持ち込みはご遠慮くださ い No pets / No pets allowed
22		爆竹などの花火類禁止 No fireworks / Fireworks including firecrackers are prohibited

3. ユニバーサルデザイン			
23	a		勾配 5%以下 Slope 5% maximum
	b		
24	a		勾配 8%以下 Slope 8% maximum
	b		
25	a		勾配 8%以上を含む Includes slope over 8%
	b		

図 27 自然公園独自のピクトグラム例

⑤ 園路の整備水準の表示

自然公園等における利用施設のユニバーサルデザイン化を推進するためには、施設へのアクセスや施設の利便性に関わる情報をすべての利用者に提供することが求められる。

園路の整備において、すべての利用者の利便性を一様に確保することは事実上不可能であることから、園路の整備水準についての的確に利用者に伝達することが必要となる。

このような考えに立ち、自然公園等の園路の整備水準に応じたシンボルを設定し、地図や誘導表示において、利便性に関わる情報をできるだけ表示する。

(ア) 園路の整備水準

- ・園路を利用形態により「主要施設へのアクセスのための園路」「自然とのふれあいの場となる園路」の2つに分類する。
- ・主要施設へのアクセスのための園路は、「都市公園の移動円滑化整備ガイドライン」等に表示されたバリアフリー経路と同等の水準であるため、整備水準を示すピクトグラムとして、JIS Z 8210 による「車椅子スロープ」を採用し、必要な位置に表示する。



図 28 ピクトグラム・車椅子スロープ例

- ・自然とのふれあいの場となる園路は、さらに「全体になだらか」「やや急な区間を含む」「険しい区間を含む」の3段階に区分し、園路の縦断勾配を示す傾きと利用者を表す表情を組み合わせたオリジナルピクトグラムを設定し、必要な位置に表示する。



図 29 オリジナルピクトグラム例

使用方法：

- ・設定した色彩は、案内図等に経路を示す際の点線の色彩と共通させる。
- ・また場合によっては白・黒のモノクロ表現とすることができる。
- ・視認性を高めるため、マークの地と図の色を入れ替えて使うことができる。
- ・誘導標識などにおいて進行方向が不自然にならないよう、マークの左右を反転させて使うことができる。

色彩：

- ・緑：できる限りすべての人が利用できる園路..... 60 / 0 / 100 / 0
- ・橙：できるだけ多くの人利用できる園路..... 3 / 40 / 95 / 0
- ・茶：利用が困難な人もいる園路 40 / 70 / 80 / 0

数字は CMYK 値

表 17 園路の整備水準とピクトグラム

	区分 1	区分 2	区分 3	整備水準			ピクトグラム
				幅 員 (最小)	縦断勾配 (最大)	横断勾配 (最大)	
自然公園における歩道	園路 集団施設地区や園地、野営場等の限られた区域内を回遊し、さまざまな利用施設を結ぶ連絡路	主要施設へのアクセスのための園路	すべての利用者が円滑に移動できる園路	180cm 通路の末端付近及び当該園路の 50m 以内に 180 × 180cm の場所を確保すれば 120cm	5% 短い一部の区間では 8%	1% 排水等のためやむを得ない場合は 2%	—
		自然とのふれあいの場となる園路	できる限りすべての人が利用できる園路 全体になだらか	120cm			a  b  勾配 5%以下 Slope 5% maximum
			できるだけ多くの人が利用できる園路 やや急な区間を含む	90cm	8% 短い一部の区間では 12%	5%	a  b  勾配 8%以下 Slope 8% maximum
			利用が困難な人もいる園路 険しい区間を含む	—	—	—	a  b  勾配 8%以上を含む Includes slope over 8%
	探勝路			—			 自然探勝路 / Natural trail
	登山道			—			 登山道 / Trail, Hiking trail

注：「—」は該当なしを示す

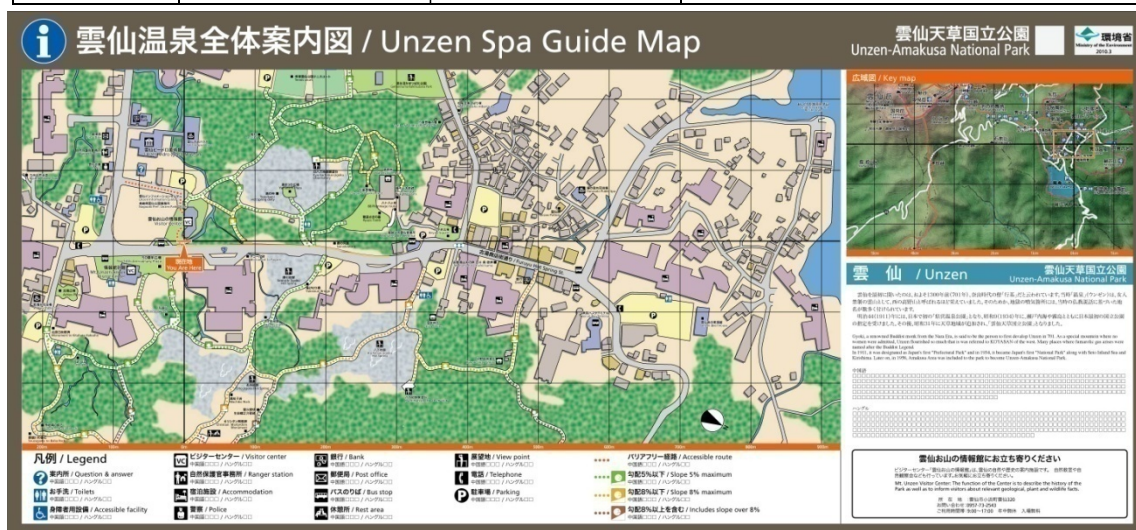
⑥ 地図

(ア) 地図の種類

- ・総合案内標識と案内図標識において地図を掲載する。地図の種類およびそれぞれの目的等については、次の通りとする。

表 18 地図の種類と表示基準

標識の種類	総合案内標識		案内図標識	
地図の種類	主地図	副地図	主地図	副地図
目 的	利用者の現在地、および周辺の施設・資源等との位置関係を把握する。	主地図に示された範囲の広域における位置関係を大まかに把握する。	利用者の現在地、および周辺の施設・資源等との位置関係を把握し、行動の手がかりとする。	主地図に示された範囲の広域における位置関係を大まかに把握する。
表示範囲	集団施設地区の全体、または利用者が比較的容易に移動できる程度の範囲を表示する。	国立公園の全体、または団地等まとまりのある一定の範囲を表示する。	利用者が比較的容易に移動できる程度の範囲を表示する。	集団施設地区の全体、または主地図を含む広域の範囲を表示する。
縮 尺	表示寸法（h650 × w1400mm）内に必要な表示範囲を配置した結果として決定する。	表示寸法（h320 × w490mm）内に必要な表示範囲を配置した結果として決定する。	表示寸法（h775 × w880mm）内に必要な表示範囲を配置した結果として決定する。	表示寸法（h260 × w260mm）内に必要な表示範囲を配置した結果として決定する。
表示方向	設置位置における利用者の前方を上として表示する。	原則として北を上として表示する。	設置位置における利用者の前方を上として表示する。	



(総合案内標識例)

(案内図標識例)

図 30 地図例

(イ) 表示内容

- ・下表の事項を原則とし、利用者にとって必要と思われる情報を、地図上の視認性や利用者の理解のしやすさに配慮した上で、適宜選択して表示する。

表 19 地図の表示内容

地図の種類	主地図	副地図
(1) 地勢等	陸地および水面（山、川、湾、島、半島、湖、池、堀など）	
(2) 地名等	都道府県、市町村等の行政界と名称など	
(3) 等高線	等高線（特徴的な地形がある場合などに、他の表示内容を妨げない範囲で表現する）	
(4) 道路等	国道、都道府県道、市町村道、自動車専用道など	
(5) 交通機関等	鉄道路線・駅、バス路線・バス停、船舶航路、空港、ロープウェイなど	
(6) 公共施設	都道府県庁、市町村役場、郵便局、警察、病院など	都道府県庁、市町村役場など
(7) 利用施設等	情報施設、便益施設（ビジターセンター、案内所、お手洗、駐車場、休憩所、避難小屋 など） その他の施設（広場、園地、園路、自然探勝路、登山道、宿泊施設、キャンプ場、展望施設、博物館 など）	ビジターセンター、主要な園地
(8) 自然資源等	動植物、地形・地質、湿原、瀑布、潮流、雪渓、湧水・水場 など	とくに著名なもの

(1)～(5)までの事項はベースマップ（文字等による説明のない地形図）として表示するもので、線や面により表現する。

(6)～(7)までの項目はベースマップ上に目的に応じて表示するもので、面、線、文字、記号（ピクトグラム）等により表現する。

(ウ) 現在地

- ・現在地表示は最も視認性の重要度が高いため、誘目性の高い赤色で表示することを原則とする。
- ・さらに視認性を高めるため、表示の周囲に白線の縁取りを行うことを原則とする。

単位：mm



※ 現在地表示の色を赤にしている例が多いが、一般的に最も彩度の高い赤（0/100/100/0）は、視覚障害者にとって黒文字や黒線と区別しにくいために目立って見えないことがある。このためオレンジ寄りの赤（0/75/95/0）を用いる。

図 31 現在地の表示例

(エ) メッシュ・スケールバー・方位

- ・主地図の地図上に、現在地を始点として 100m 単位程度（副地図は数 km 単位程度）で縦横のメッシュを表示する。地図の見やすさを考慮して、線の色は黒を基本とし、幅はできるだけ細くするが、現在地で交差する線をやや太く表示することで、現在地の誘目性を高める。
- ・地図の下端または上端に、一定幅の色のラインを配置して、スケールバーとする。ラインの色は現在地表示と同色を基本とし、幅は 10～15mm 程度とする。距離の表示は現在地点をゼロとし、メッシュと対応した位置に表示する。
- ・地図の邪魔にならず視認しやすい位置に、方位の表示を行う。使用するマークの形は任意とするが、できるだけシンプルな形状のモノクロ表示を原則とする。また背景の明度が低く識別しにくい場合は、マークの周囲に細い白線を付加するなど、視認性を高める措置を講じる。

単位：mm

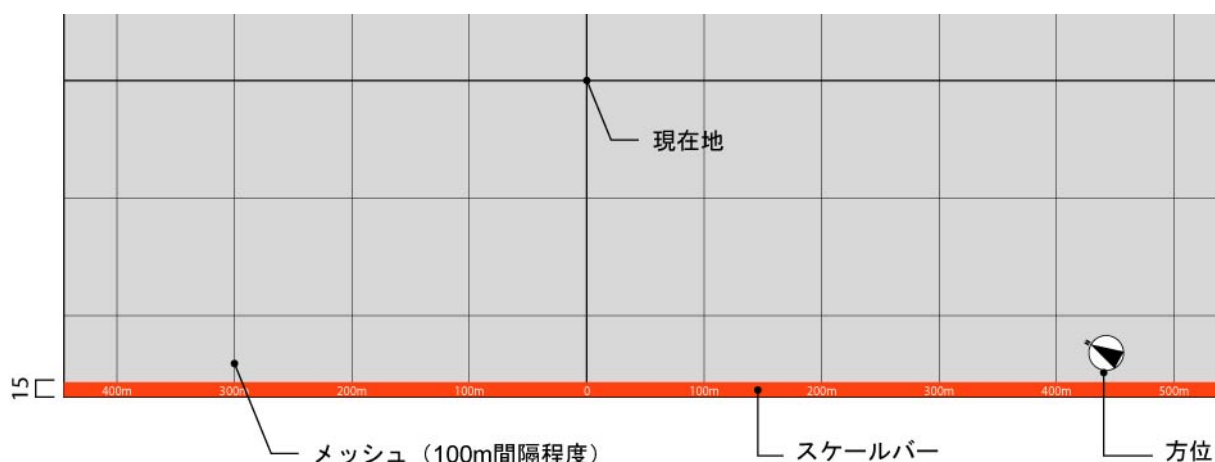


図 32 メッシュ・スケールバー・方位の表示例

(オ) 色彩

- ・地図に用いる色は、色数が増えると煩雑になるため、多くの色を用いないことが望ましい。
- ・色どうしの明るさのコントラスト（対比）を十分大きくすること等により、高齢者や弱視者などにもできる限り識別しやすいよう工夫することが望ましい。類似の色がどうしても隣り合う場合は、色面の境界に白または黒の縁どりを行うなどの措置を講じる。
- ・文字やピクトグラムは基本的に黒と考えられるため、これらの背景に明度の低い（暗い）色が配置されないようレイアウトを工夫する。どうしても重なり合う場合は、文字やピクトグラムに白の縁どりを行うなどの措置を講じる。

⑦ 管理者表示

- ・表示された情報について、利用者に対し責任の所在を明らかにするため、管理者および情報が作られた時点（設置年月）の表示を行う。
- ・総合案内標識には、国立公園の名称や自然公園や長距離自然歩道のシンボルマーク等を、管理者表示との位置関係をそろえて表示する。
- ・誘導標識、注意標識は、表示内容が頻繁に更新されないこと、表示スペースを最大限活用することなどから、時点を含まないコンパクトな表示とする。
- ・環境省ロゴマークの使用に当たっては、「環境省ロゴマーク使用規定」（広報委員会決定 H13.2.26）を遵守する。

単位：mm

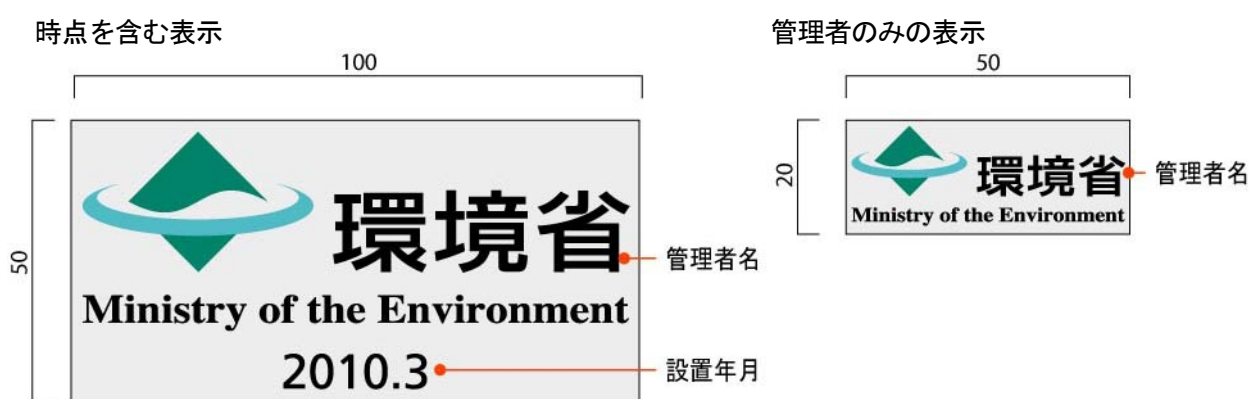


図 33 管理者表示の表示例

■参考：「環境省ロゴマーク使用規定」

環境省ロゴマークのコンセプト及び仕様等

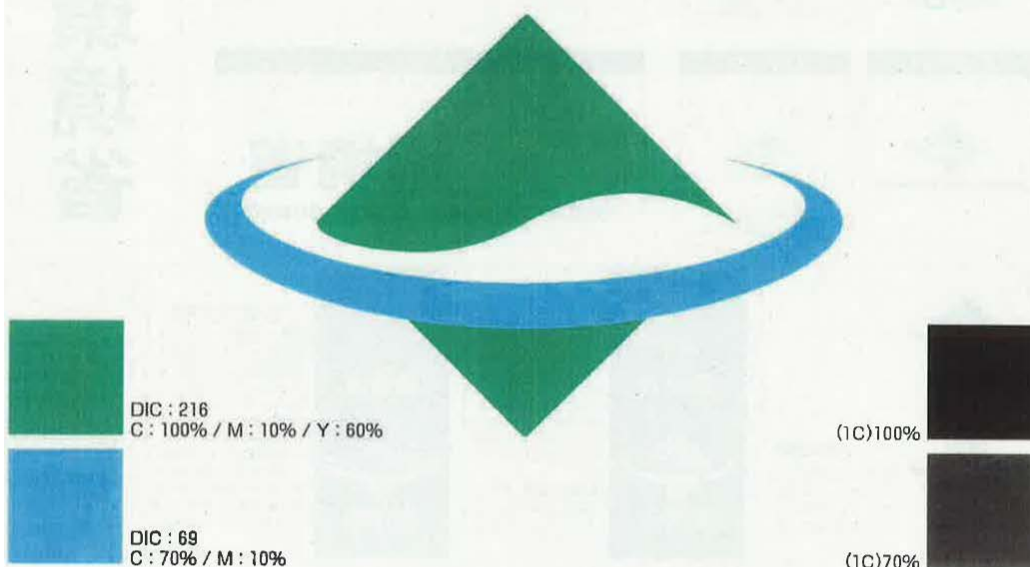
上の緑の三角形は、山、自然界、地球環境を表わしています。

中央の水色の楕円は山を映す澄んだ水、海を表わすとともに、様々な人々が協力して、人や自然全てを包んで守っていく愛情を象徴しています。

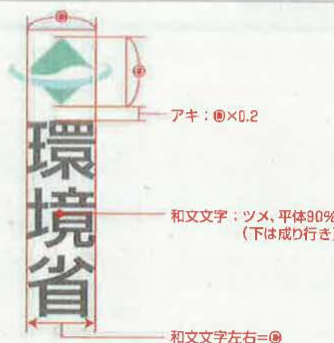
下の緑の三角形は水面に映る自然の姿で、これによって今日の環境問題の原因となっている人間の活動を示しています。

また、水面の上下を一体的に表すことによって、環境問題の解決への取り組みを、情報を公開しながら皆さんとともに進めていくという姿勢を表しています。

このロゴマーク全体の姿で、環境の大切さを深く心に刻み、それを守るゆるぎない姿勢、環境の世紀に向けての変革への決意を込めています。



出先機関名、施設名、催事名などの名称表記の際の割り出し表
ロゴマークの大きさの比率、および位置関係、配色を必ず守ってください。



※和文「新ゴM」、欧文「Times-Bold」の使用を推奨します。

視認性が悪い場合の白マドの割り出し方
背景色がロゴマークと近似している等の理由によりロゴマークの視認性が悪い場合には、右に示す割合以上の間隔をとり、白マドを使用してください。白マドに関しては、円形、四角形等のロゴマークの形状を損なわない形を使用してください。



$1 \times 0.05 = 0.05$

どのロゴマークを使用した場合も規定以上の間隔をとった白マドを使用してください。基本的には正円、正方形を推奨しますが、場合によっては長方形でも構いません。くれぐれもマークの品位を落とすことのないよう留意してください。



図 34 環境省ロゴマークのコンセプト及び仕様等

Ⅱ－３ 公共標識におけるユニバーサルデザインの配慮事項

公共標識は、位置情報や案内情報の他、自然解説や安全に関わる情報等を伝達し、国立公園における利用の利便性や安全性の他、自然とのふれあいの質を高めるために重要な施設であることから、多様な利用者の特性に配慮した誰にでもわかりやすい施設を適切に整備することが重要である。

なお、標識自体が景観要素の一つとなり、地域のイメージの形成や展望地等における修景機能を果たすこともあるので、設置には十分な景観的配慮が必要である。

- (i) ユニバーサルデザイン計画の対象地域における配置計画
- (ii) 誰もが利用しやすく、わかりやすい表示
- (iii) 表記する情報の内容
- (iv) 利用しやすさに配慮した配置と構造
- (v) 運営開始後における配慮事項（パンフレット類との併用やガイド等の案内、ユビキタス対応等による補完）

(i) ユニバーサルデザイン計画の対象地域における配置計画

自然公園等のユニバーサルデザイン計画の対象地域内（すべての人が利用できる区域）において、ユニバーサルデザイン情報として、施設や園路等の障害者対応情報、整備水準を表示する案内標識及び注意標識を、駐車場、公衆便所、情報提供施設（ビジターセンター、インフォメーションセンター等）及び各施設へのアクセスルート等に配置する。

点字表記は、「すべての人が利用できる区域」内の公共標識に表示することを基本とし、「ユニバーサルデザイン推奨区域」内は必要に応じて表示する。

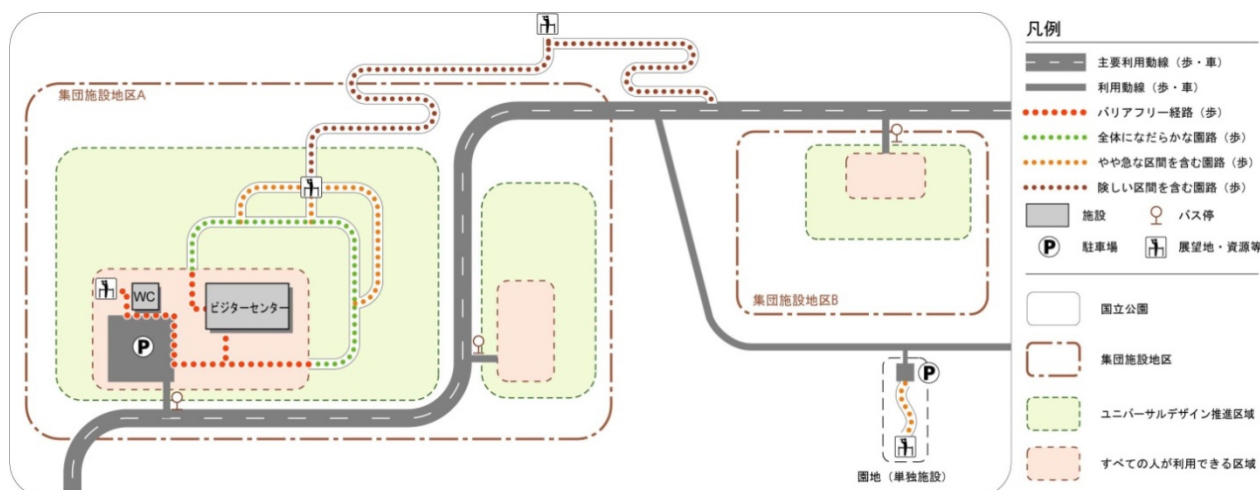


図35 ユニバーサルデザイン計画の対象地域イメージ(参考)

(ii) 誰もが利用しやすく、わかりやすい表示

① 公共標識の種類と設置場所

公共標識（サイン施設）は、利用者の利便性や安全性の他、自然とのふれあいの質を高めるために重要な情報伝達施設であり、自然公園等における公共標識の種類は「公共標識のタイプ」（公共標識 3 頁表 1 参照）、標識の設置場所は「公共標識の設置場所」（公共標識 7 頁表 2 参照）のように整理されている。

② 表記文字の原則

各種標識における表記の原則は、「公共標識の標準表示内容」（公共標識 28 頁表 8 参照）に示すとおりである。

視覚障害者の対応として、点字表記及び触知図を加える他、必要に応じて音声案内装置等の設置を検討する。

若年者への対応として、難読漢字等へのふりがなの添付などの工夫を行う。



日本語、英語、中国語（簡体字）、韓国語表示のサイン

支笏洞爺国立公園



日本語、英語表示のサイン
公園のシンボルマークも入っている

白山国立公園

③ 読みとりやすい文字の大きさや色彩

表示内容が容易に読み取れるように、文字の大きさや色彩の組み合わせ等への配慮を行う他、設置場所により夜間利用に配慮した照明設備を設けることが望ましい。

文字の大きさや色彩についての配慮事項は、参考 1（公共標識 64 頁参考 1 参照）、参考 2（公共標識 66 頁参考 2 参照）に示すとおりである。

④ わかりやすいピクトグラム

全国の自然公園において、「多言語対応のピクトグラム」と「自然公園独自のピクトグラム」を使用することで、全国共通のわかりやすい情報提供を行うことが望まれる。

既存の公共標識で使用されており、かつ上記と異なるピクトグラムがある場合は、必要に応じて日本語と英語を表記し、外国人の利用特性に応じその他の言語を表記する。また、新たに独自のピクトグラムを作成する場合には、必ず日本語と英語を表記し、外国人の利用特性に応じその他の言語を表記する。

(iii) 表記する情報の内容

① 行動起点に設置する総合案内標識、案内図標識

総合案内標識、案内図標識には、主要な地名、施設（障害者対応施設情報含む）及び景観資源等の位置、園路の特徴や距離、路面状況、勾配などの難易度等を表示する他、危険箇所情報や利用マナー等を表示し、利用者が、能力や興味に応じた利用コースの選択や行程確認ができるようにする。

地図には、現在地をわかりやすく表示し、障害者対応施設をピクトグラムで明示する他、車いす使用者や高齢者が利用しやすい園路を色分けで表示する等の工夫を行う。

なお、地図が容易に読み取れるよう、利用者の読み取り方向と地図の方角を一致させることが望ましい。

視覚障害者への情報提供のため、触知図を触れやすい位置、大きさに併設する。

また、設置場所によっては、見どころなどのリアルタイム情報やイベント告知といった一時的な情報提供を行う掲示板やパンフレットボックスを併設することも有効である。

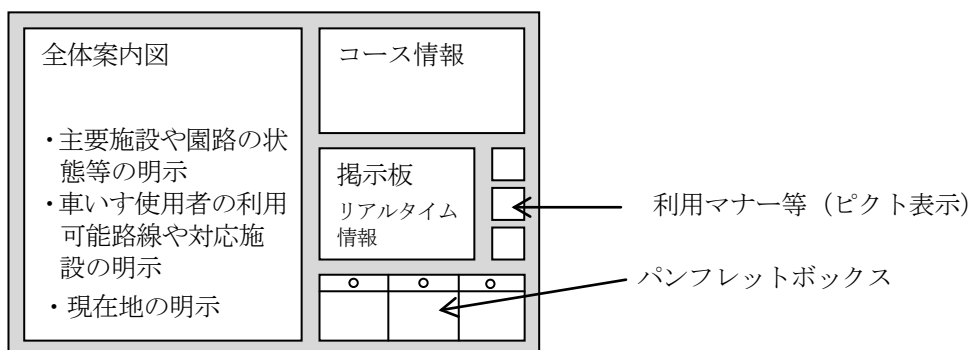


図 37 総合案内標識の表示例

② 利用者の円滑な移動を補助する誘導標識

誘導標識は、利用者が地区内を円滑に移動するための標識であり、施設や興味地点の名称と方向に加え、利用者が自己の能力等に応じて利用コースを選択できるよう、距離、路面の状況、勾配、所要時間など通行の難易度に関する情報を示し、園路の起終点、中間点、分岐点や難易度の変化点等に設置する。

なお、総合案内標識や案内図標識の表記と色や番号で連携させるなど、利用しやすいように工夫する。

また、視覚障害者に配慮して、園路の縁石やフラットバー（縁板）、表面材料等による連続した誘導方法も検討する。



バリアフリー対応のコースを表示したサイン
磐梯朝日国立公園 裏磐梯集団施設地区

③ 自然体験を補助する解説標識

解説標識は、自然環境等について理解する手助けとなるものであり、解説対象の図や写真、イラスト等を用いてわかりやすい表現とし、必要に応じて、触れやすい位置に触知図を併設する。

④ 適切な利用を促す注意標識

事故防止や自然環境の保護、利用規制等の認知のために必要な注意・警戒事項、禁止事項、フィールドマナー等を伝える標識は、ピクトグラムと文字を併用し、誰にでも直感的にわかるように表示する。

特に、園路の難易度の変化点では、注意標識とともに園路の状況等を明示して利用者が利用するか否かを判断できるようにするとともに、ゲートの設置、幅員や舗装材の変化など、確実に知らせるための工夫を施す。

また、危険箇所では、注意標識に加え、視覚障害者が危険を予知できるように安全柵等を設置する。

(iv) 利用しやすさに配慮した配置と構造

① 誰もが利用しやすい標識設置の工夫

標識は、利用者の動線等を考慮して、通行の妨げにならず目につきやすい位置に、誰にも利用しやすいように設置することを基本に、以下の点に配慮して整備する。

- ・案内図標識や解説標識は、子どもや車いす使用者も見やすいよう、表示面から 1m 程度離れて見る場合、表示面の上端の高さを 170～185cm 程度以下に抑えて設置することが望ましい。(公共標識 66 頁参考 2 参照)
- ・総合案内標識、案内図標識、解説標識のように情報量の多い標識の場合は、時間をかけて情報を得るため、通行に支障のないよう園路から後退させて滞留スペースを設けて設置する。
- ・標識の前面には、車いす使用者が容易に接近し方向転換ができるよう、表示面の方向に 150cm × 150cm 以上の水平面を確保する。
- ・通行等の支障とならないよう、園路の外側や園地の周辺部に設置することを基本とするが、園路等からの隔距離は、情報を読みとりやすいよう園路端から 60cm 以上離さないようにする。
- ・誘導標識等がやむを得ず園路上に突出する場合は、視覚障害者の通行の支障とならないよう、下端を 200cm 以上の高さにするか柵の設置などの侵入防止措置を施す。

また、展望地点等に設置する場合は、低い位置に傾斜をつけて設置するなど、展望を阻害しないように配慮する。

屋外では、季節や時刻によって自然光の強さと方向が変化することから、緑陰等を考慮して設置場所を検討することが望ましい。一般に、東西方向に並行する配置の方が逆光の影響を受けにくい他、必要に応じて日よけの庇を設けるなどの方法も考えられる。

なお、標識の背景に照明や看板等が位置すること等により、表示が見にくくならないように配慮する。



車いす使用者に対応したサインの例
富士箱根伊豆国立公園
大涌谷園地



底を設けたサインの例
利尻礼文サロベツ国立公園

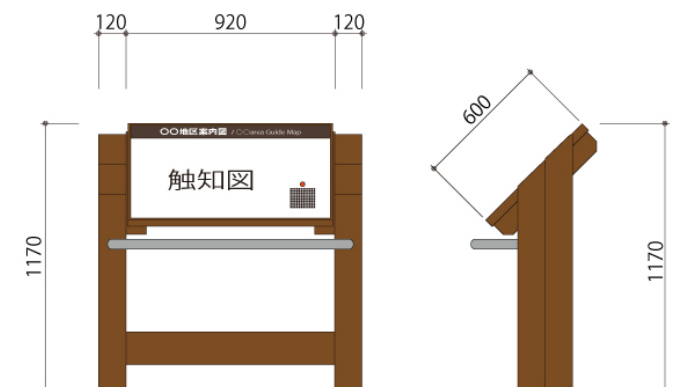
② 視覚障害者に配慮した標識の工夫

視覚障害者にとっては、標識の存在がわかることが重要であり、足裏の感触や白杖で標識の存在がわかるように、標識の足下の舗装材を変える、標識の下部にバーを付けて白杖で確認できるようにするなどの工夫を施す。

こうした工夫の他、縁石やフラットバーによる誘導がなされている場合や、溪流や滝の水音で位置が認識できる地点等がある場合は、その旨を行動起点となる駐車場やビジターセンター等に設置した触知型の案内図標識や点字パンフレット等で予め伝達する。

触知板を設置する場合には、直接手で触れるため、夏の直射日光で熱くならない素材の選択、日陰への設置などの配慮とともに、清潔を保つ管理も必要である。

触知板は、90～120cm の触れやすい高さに設置し、大きさは両手を広げたくらいが全体を把握できわかりやすい。



視覚障害者に標識の存在を知らせる工夫の例



木陰に設置された触知板
富士箱根伊豆国立公園
田貫湖集団施設地区



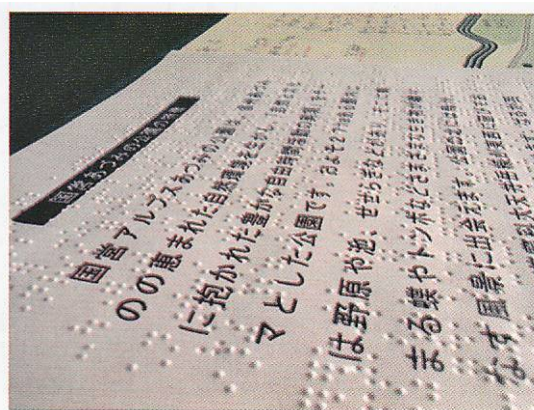
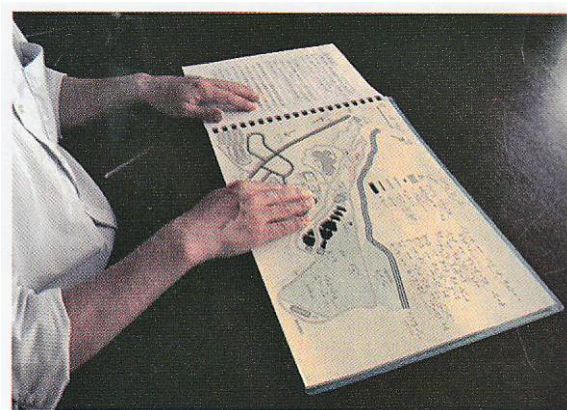
マップと点字で構成された触知板
京急電鉄羽田空港駅構内

(v) 運営開始後における配慮事項（パンフレット類との併用やガイド等の案内、ユビキタス対応等による補完）

主要利用拠点等の広い範囲全体を案内図等で把握することは難しいことから、パンフレット等との併用が有効である。特に視覚障害者にとっては、触知図ですべての情報を把握することは困難であり、触知型のパンフレットが効果的である。

パンフレットには、園路等の状況や障害者対応施設（便所、休憩所等）に関する情報を記載する他、緊急時の連絡先としてビジターセンターの電話番号を記載するなど、きめ細かな情報提供に配慮する。パンフレットは、日本語版と英語版に加え、外国人の利用特性に応じ、その他の言語版をビジターセンター等で入手可能なように準備しておくことが望ましい。

なお、触知型パンフレットの作成に当たっては、利用者に表現方法の確認を行うなど視覚障害者の利用特性に留意する必要がある。



点字パンフレットの例 国営アルプスあづみの公園
出典) 国土交通省監修『ユニバーサルデザインによるみんなのための公園づくり』

また、ガイドスタッフに施設やフィールドの案内や説明をしてもらうことは、標識類やパンフレット等より多くの情報を得ることができ、特に視聴覚障害者にとっては環境のイメージを膨らませる上で効果的である。

ビジターセンター等において、サポートガイドのサービスを提供するとともに、多様な人とコミュニケーションの図れるガイドスタッフの養成などを含めたユニバーサルサービスの体制づくりが望まれる。



ガイドによってより多くの情報が得られる
利尻礼文サロベツ国立公園 幌延園地

多言語対応のパンフレットやガイド等以外に、訪れた外国人等の自然公園への理解を深めるために、自ら所有している情報端末を利用して、情報を得られるようにすることが効果的である。

ただし、LAN 等の通信環境の整備が必要となることから、ビジターセンター等の利用拠点において、運営上の必要性を検討した上で、可能な範囲でのユビキタス対応が望ましい。

参考１：視認しやすさを考慮した文字の大きさと色彩

表示文字の大きさは、視力の低下した高齢者等に配慮して、視距離に応じた大きさを選択する。書体は、視認性の優れた角ゴシック体とすることが望ましい。

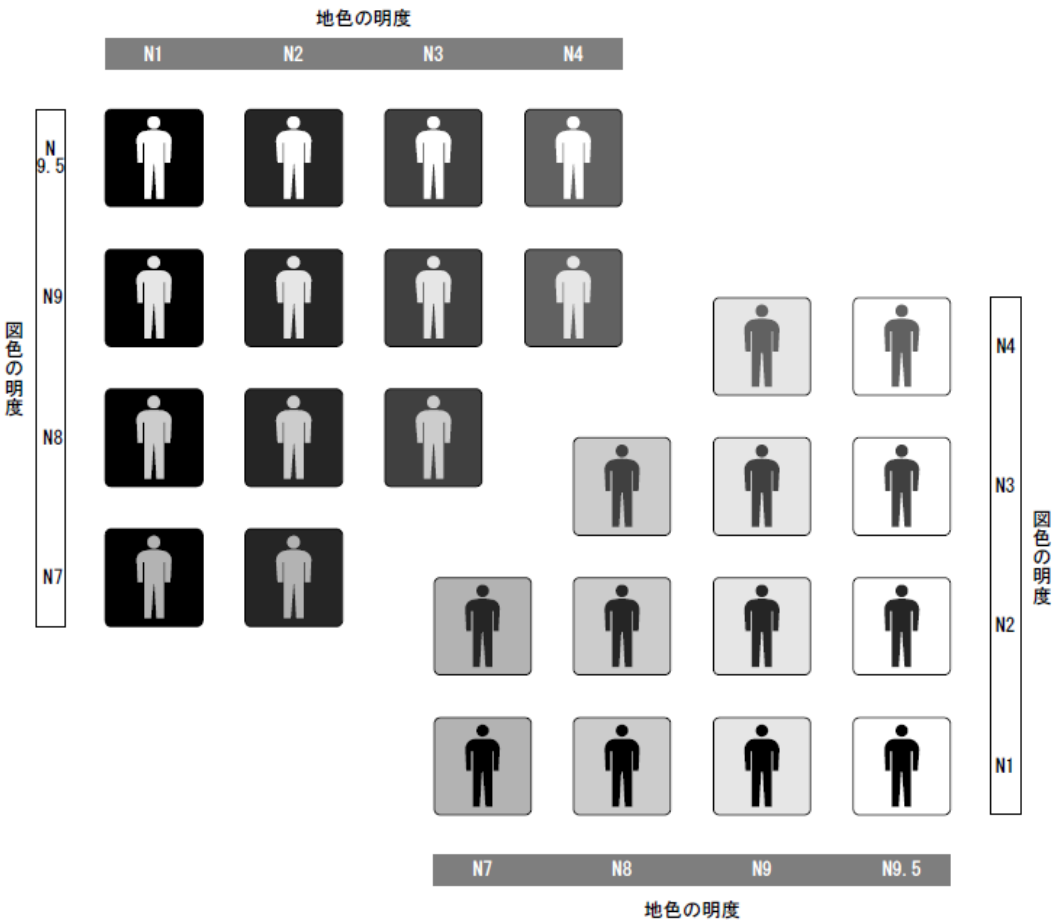
文字の大きさの選択の目安

視距離（m）	30	20	10	4～5	1～2
和文文字高（mm）	120 以上	80 以上	40 以上	20 以上	9 以上
英文文字高（mm）	90 以上	60 以上	30 以上	15 以上	7 以上

文字高とは、日本語では指定書体の「木」の高さを、アルファベットでは指定書体の「E」の高さをいう。



文字と地色の色調は、文字が見やすく容易に識別できるものとするため、高齢者に多い白内障に配慮して「青と黒」、「黄と白」、「赤と緑」の組合せを避ける。また、視認性を確保する上で文字と地色の明度差を明度スケールで５段階以上とすることが望ましい。



図色と地色の明度対比例

弱視者や視力の低下した高齢者、色覚障害者の利用を考慮し、表示の色彩も注意深く選定する必要がある。基本的には、明るい色の地の濃い色の文字を組み合わせ、表示板の色と文字が対照（コントラスト）をなすようにする。

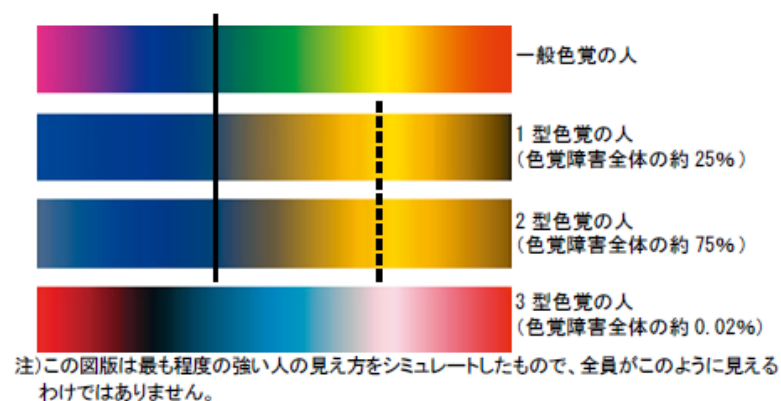
色を組み合わせる場合は、色覚障害者に配慮し、見分けやすい色の組み合わせを用いて、表示要素毎の明度差・彩度差を確保した表示とする。

色覚障害者にとって識別が困難な色の組み合わせは、「赤と黒」、「赤と緑」、「緑と茶色」、「黄緑と黄色」、「紫と青」、「赤と茶色」、「水色とピンク」、「黄色と明るい黄緑」、「オレンジと黄緑」があげられ、このような組み合わせは避ける。

また、赤系の色を用いる場合は、濃い赤を用いず朱色やオレンジに近い赤を用いる。赤を用いる場合は他の色との境目に細い白線を入れると表示が目立ちやすくなる。

色覚障害者のうち大多数を占める赤緑色覚障害（1型色覚、2型色覚）の人は、赤～緑の波長域において、明度が類似した色の見分けが困難になっている。下図の黒い実線から右（長波長）側の「赤～緑の領域」で色の差が小さくなっている。この範囲では点線を中心に左右の色がほぼ対称に見えていて、「赤と緑」、「黄緑と黄色」の差が特に小さくなっている。

さらに1型色覚では、最も長波長側の視物質に変異があるため赤が暗く感じられ、「濃い赤」はほとんど「黒」に見える。（弱視の人と同じ傾向がある）



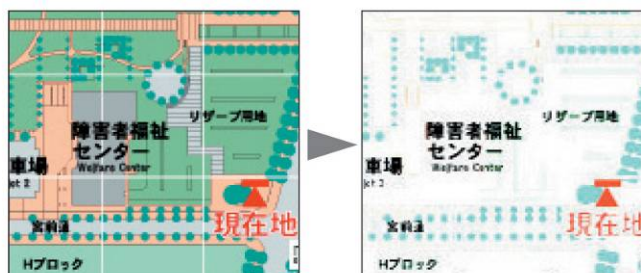
色覚障害者の色の見え方

屋外に設置するサインは、森林の緑や茶色を背景とすることが多く、また、サイン本体に木材を使用することを基本とした場合、木材の色と調和するクリームやオフホワイトを表示板の地色として使用することが望ましい。ただし、白い地色は光が当たると眩しく見える場合があるため、表示面につや消しを施す。

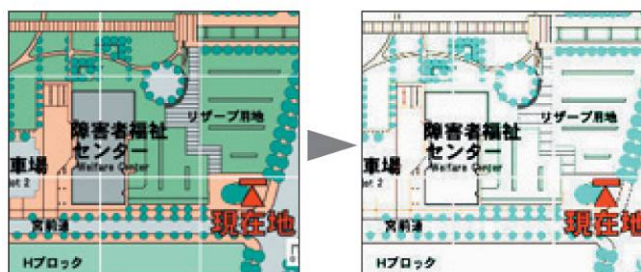
なお、早朝や夜間の利用が考えられる場所では、照明により、表示が読みやすい 50 ルクス以上の照度を確保することが望ましい。

縁取りによる視認性の向上

- 一般的な縁取りによる色覚異常のシミュレーション結果



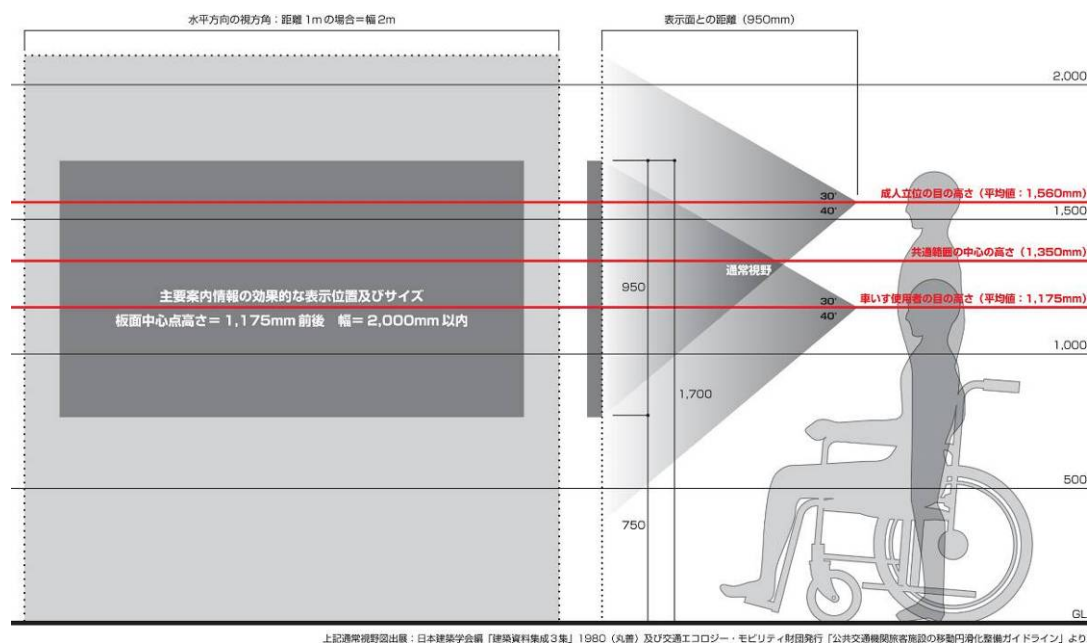
- 縁取り（色明度差）強調による色覚異常のシミュレーション結果



地図内の要素を黒色で太く縁取りするなどの配慮により、地図の表現力を維持しながら多様な条件下での視認性を確保することができる。

参考2：誰もが見やすい表示面の高さ大きさ

表示面の高さは、視線の低い子どもや車いす使用者にも見やすいよう、表示面から 1m 程度離れて見る場合、表示面の上端の高さを 170～185cm 程度以下とすることが望ましい。また、表示面の幅は、表示面から 1m 程度離れて見る場合は 2m 程度以内に、2m 程度離れて見る大判の表示面を設置する場合でも 4m 以内に納めることが望ましい。



上記通常視野図出典：日本建築学会編「建築資料集成 3 集」1980（丸善）及び交通エコロジー・モビリティ財団発行「公共交通機関旅客施設の移動円滑化整備ガイドライン」より

日本建築学会編「建築資料集成 3 集」及び交通エコロジー・モビリティ財団発行「公共交通機関旅客施設の移動円滑化整備ガイドライン」に定められている表示面の高さや位置及び視方角の設定に準じたサイズ

表示面の望ましい高さとは幅